

日本精鉍中国現法

今期販売1000トン目指す

三酸化アンチ系 樹脂難燃助剤 車・家電向け好調

【上海15日＝芳賀陽平】日本精鉍の中国現地法人である日銻精礦（上海）商貿（本社＝上海市長寧区）は、三酸化アンチ系樹脂難燃助剤の今期販売量1000トンと通期黒字化を目指す。日系自動車や家電向けが好調で、足元の販売量は昨年より約3割ほど多い月間70～80トンまで増加している。

た、炊飯器や便座などの家電も、日系メーカーが現地生産する製品の販売も堅調に推移している。

通期黒字化にも照準

日本精鉍は、13年10月に三酸化アンチ系樹脂難燃助剤の販売支社を設立した。主な販売先は日系の家電、自動車部品メーカーなどで、現地生産のOEM品を日本精鉍のスペックとブランドで販売

し、アフターサービスなどで現地競合との差別化を図っている。アンチ系樹脂関連市場は、現地系企業のマーケットは生産能力過剰

による供給過多で停滞傾向にある。一方で、現在は1600cc以下の自動車に補助金が設定されており、日系の自動車メーカーの販売

が好調。補助金の交付期間は16年内までだが、中間層には手ごろな日系メーカーのSUVなどは人気が高く需要は底堅いという。ま

樹脂難燃助剤の月間販売量は14年の20～30トン、15年の40～50トンから着実に増加しており、設立当初から当面の目標としていた月間販売量1000トンも視野に入ってきた。今年1月から現地で指揮をと

であるため、引き続き市場が大きい中国、その他アジア地域での販売に力を入れていく。中国支社は、市場調査

る植田憲高・総経理は「追い風となる要因があったが、手心えは感じていない」と話す。日本国内は成熟市場

や研究開発情報の収集を行う戦略的活動拠点としての役割も担っている。